

(仮称)新リサイクルセンター
整備及び維持管理委託事業
落札者決定基準書

令和6年11月

ふじみ衛生組合

－ 目 次 －

| | |
|---------------------|---|
| 1 落札者決定基準書の位置付け | 1 |
| 2 応募者の審査及び落札者の選定 | 1 |
| (1) 審査機関 | 1 |
| (2) 審査方法 | 2 |
| (3) 参加資格要件の確認（資格審査） | 3 |
| (4) 民間事業者の決定（提案審査） | 3 |
| 3 総合評価 | 6 |

1 落札者決定基準書の位置付け

ふじみ衛生組合（以下「当組合」という。）が進める「（仮称）新リサイクルセンター整備及び維持管理委託事業」（以下「本事業」という。）において、実施する事業者は、施設の整備に加え、維持管理業務及び運転支援業務に関する専門的な知識及びノウハウ等が求められる。このため、当組合では、落札者の決定に当たっては、価格以外の要素（施設の性能及び機能等）及び価格によって落札者を決定する一般競争入札方式の総合評価方式を採用する。

落札者決定基準書は、総合評価方式により落札者の選定に際し、要求水準書等の内容について、応募者から提出された技術提案書を可能な限り客観的に評価する基準として示すものである。

2 応募者の審査及び落札者の選定

（1）審査機関

当組合は、応募者の提案を審査するに当たって「ふじみ衛生組合リサイクルセンター事業方式及び事業者選定審議会」（以下「審議会」という。）を設置する。

実施方針の公表から落札者決定に関する公表までの期間において、審議会の委員に対し、提案書の審査に関して自己の有利になる目的のため、接触等の働きかけを行った場合は失格とする。

表 1 事業者選定審議会 委員名簿

| 役割 | 氏名 | 所属 |
|-----|--------|-------------------------|
| 会長 | 橋詰 博樹 | 元多摩大学 グローバルスタディーズ学部 |
| 副会長 | 宮脇 健太郎 | 明星大学 理工学部 総合理工学科 |
| 委員 | 小暮 与志夫 | 小平・村山・大和衛生組合 事務局 |
| 委員 | 野本 修 | 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 |
| 委員 | 山口 直也 | 青山学院大学大学院 会計プロフェッション研究科 |

(2) 審査方法

民間事業者の審査方法は下記に示すフローのとおり。

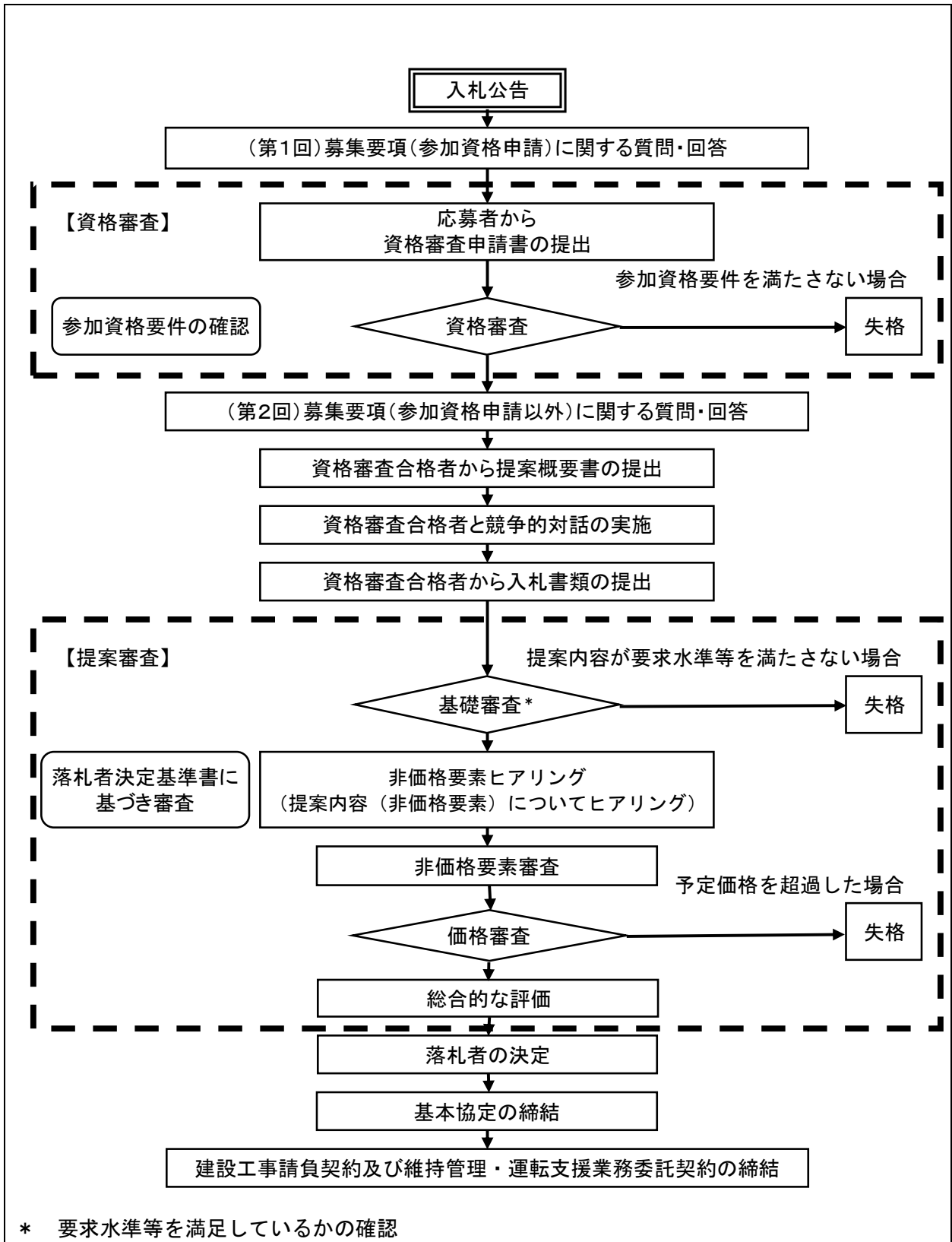


図 1 審査方法

(3)参加資格要件の確認（資格審査）

応募者は、次に従って資格審査の申請を行い、当組合の審査を受けること。

ア 資格審査

応募者から提出された資格審査申請書等を基に「入札説明書」に示した要件を満たしていること等についての確認を行う。

参加資格要件を満たすことが確認された応募者のみ、次段階の提案審査に参加できることとする。なお、資格審査結果は各応募者に対して通知する。

イ 入札参加資格がないと認められた理由の説明要求及び回答

入札参加資格が認められなかったものは、その理由について当組合に対して説明を求めることができるものとする。

(4)民間事業者の決定（提案審査）

当組合は、落札者決定基準書に基づき、次のアからウまでの手順を経て落札者を決定し、その結果を各応募者に書面で通知するとともに、速やかに公表する。

ア 基礎審査

基礎審査は、資格審査を合格した応募者から提出された技術提案書及び事業計画書について、技術提案書が技術的観点から見て当組合の要求する性能要件を満足するものであること、事業計画書がコストや収益の面から事業としての妥当性を有していること等の確認を行う。これらを満たすことが確認された応募者は次段階の非価格要素審査及び価格審査に進むこととする。

イ 非価格要素審査

非価格要素審査として、応募者の提案内容について審議会において評価する。なお、評価に当たっては、必要に応じて応募者へのヒアリングを実施する。

(ア) 評価項目及び配点

非価格要素審査の合計点は50点とする。

審議会では、技術提案書における提案内容を表2に示す基準で評価し、点数化する。

表 2 評価項目及び配点

| 評価項目 | 評価の視点 | 評価内容 | 点数(点) |
|--------------------|---|---|-------|
| (1) 施設に関する事項 | | | 16.0 |
| ① 施設性能・施工計画 | 安定的な処理を継続するための、優れた施設性能・施工計画が提案されているか。 | ○建設工事請負事業の実施体制に関する提案 ○工期を遵守するための工夫・提案 ○各処理系列における処理方法の提案 ○安定的な処理を継続するための保管機能（ピット、ヤード等の貯留機能）における提案 | 3.0 |
| ② 騒音、振動、悪臭等防止対策 | 騒音、振動、悪臭等の公害防止基準を遵守し、周辺住民に配慮した施設が提案されているか。 | ○公害防止基準値を遵守するための設備設計及び基準値の提案 ○要求水準を上回る優れた設備設計の提案 | 2.5 |
| ③ 作業環境 | 運転員の作業環境について、適切に作業を実施し、かつ運転の作業性・操作性の高い施設・環境の提案がなされているか。 | ○暑さ、寒さ、騒音、振動、悪臭、照度に対応した作業環境の提案 ○運転員の作業性及び操作性に優れた設備設計の提案 | 3.0 |
| ④ 安全管理 | リチウムイオン電池等による火災・爆発を含め、施設の安全管理・事故防止に配慮した優れた提案がなされているか。 | ○本施設の安全管理（火災、公害防止基準値等）、事故防止対策の提案 | 2.0 |
| ⑤ 全体施設配置・車両動線 | 搬入物の持ち込みや料金支払い等、本施設を利用する市民の利便性等に配慮した、優れた施設配置計画・動線計画について、具体的な提案がなされているか。 | ○具体的な施設配置計画 ○具体的な動線計画 ○料金支払い等における工夫 | 2.5 |
| ⑥ 施設の改造対応 | 法令や制度等の変更に伴う処理系列の増減を想定し、処理系列の見直し・変更に対して柔軟な対応ができる施設の提案がなされているか。 実行可能性があり、かつ自らが提案する処理フローに即した収集形態の提案がなされているか。 | ○将来の処理系列の増減に配慮し、処理系列の見直し及び変更が柔軟に対応できるような施設の提案 ○将来的なびん、缶及びペットボトルの袋混合収集を見据えた提案 ○破碎設備を導入せず不燃物処理を行う場合、有償での売却が不可能となった際の代替案の提案 | 3.0 |
| (2) 運営に関する事項 | | | 14.0 |
| ① 維持管理計画 | 本施設を30年間使用することを前提とした、効率的な保守点検、修繕計画、更新計画ならびに適切な見積金額の提案がなされているか。 | ○30年間の主要機器の保守点検、修繕計画、更新計画、見積金額の提案 | 3.0 |
| ② 運転教育計画 | 運転職員の経験年数、技術力を踏まえた運転教育計画が提案されているか。 | ○教育計画の基本方針、新規入所者又は臨時の教育、定期的な教育の提案 | 3.0 |
| ③ 運転（操業）計画 | 適切な運転（操業）計画及び処理フローに基づき、各処理系列に適切な人員配置が提案されているか。 | ○年間運転（操業）計画、各処理系列（粗大系・不燃系）における人員配置計画の提案 | 2.5 |
| ④ リスクマネジメント | 運転におけるリスクマネジメントが十分に検討されているか。また、想定されるトラブルに対し、適切なリスク分担の提案がなされているか。 | ○運転におけるリスクマネジメントの考え方 ○想定されるトラブル及び当該トラブルにおける適切なリスク分担の考え方 | 3.0 |
| ⑤ 災害時対応 | 災害時のごみの受入・処理体制、避難者への対応、また、災害時にごみ処理を実施しながら避難者を受け入れる場合の対応について、具体的な提案がなされているか。 | ○災害時のごみの受入・処理体制（運転職員体制、稼働時間）の提案（災害廃棄物処理も含む） ○本施設における避難者対応の提案 ○上記2点が同時に発生した場合の提案 | 2.5 |
| (3) 地球環境への配慮 | | | 5.0 |
| ① 脱炭素への取組 | CO ₂ 等の排出量を最少化するための方策（省エネルギー機器の採用等）について、建設・運営期間中ともに優れた提案がなされているか。 | ○建設・運営期間中におけるCO ₂ 等の排出量最少化のための提案（CO ₂ 等の総排出量） | 2.5 |
| ② 処理対象物における資源化率の向上 | 処理対象物において、資源化率が高まるような具体的な処理方法等、優れた提案がなされているか。 | ○資源化する処理対象物及び資源化率の提案 | 2.5 |
| (4) 地元経済に関する事項 | | | 2.0 |
| ① 地元経済への貢献 | 建設・運営期間を通じて、地元企業、地元住民の積極的な活用が提案されているか。 | ○建設・運営期間中における地元企業発注額、地元雇用数（土木建設、資材調達、事務員等） | 2.0 |
| (5) 見学者施設に関する事項 | | | 5.0 |
| ① 見学者ルート・見学者対応 | 処理フローを見やすく、理解できるよう、一筆書きで見学できるような見学者ルートが提案されているか。また、見学者対応における当組合等への協力について、具体的な提案がなされているか。 | ○具体的な見学者ルート（見学順路を含む）の提案 ○処理フローが良く見える見学者ルートの提案及び工夫 ○見学者対応における当組合等への協力内容の提案 | 2.5 |
| ② 環境学習機能 | 環境問題、再資源化等に関する知識や情報を発信する環境学習機能を有する施設であるか。また、見学者の年齢層を問わず、3Rへの理解を深めることができるような見学者設備の提案がなされているか。 | ○年齢層を問わず、環境問題、再資源化等、分かりやすく学べる工夫（展示物等及び適切な更新計画）の提案 | 2.5 |
| (6) その他 | | | 8.0 |
| ① コストに関する考え方 | 本施設の設計・建設から解体までの30年間を見据えた、コスト削減の具体的な提案がなされているか。また、固定費及び変動費の考え方について具体的な提案がなされているか。 | ○設計・建設から解体までの30年間を見据えた、コスト削減の提案・工夫（AI・IoT等を活用した運転人員の省力化・省人化の提案も含む） ○物価変動が生じた場合における固定費と変動費に関する提案 ○計画処理量から増減した場合における固定費と変動費に関する提案 | 2.0 |
| ② SPC財務状況 | SPC経営・収支計画について、経営の安定性確保のための優れた提案がなされているか。 | ○維持管理・運転支援事業の実施体制に関する提案 ○SPCキャッシュフロー計画、リスクヘッジ方策の提案 | 2.0 |
| ③ 地域住民への対応 | 本施設の近隣住民に親しまれる施設とするための具体的な提案がなされているか。 | ○近隣住民から親しまれる施設の提案 | 2.0 |
| ④ 意匠計画 | 周辺環境と調和した施設の提案がなされているか。 | ○周辺環境に調和した施設の提案 | 2.0 |
| 合 計 | | | 50.0 |

(イ) 評価基準及び得点化方法

評価項目における評価基準及び得点化方法は、表 3 に示すとおりである。

表 3 評価基準及び得点化方法

| 評価 | 評価内容 | 採点の算出方法 |
|----|------------|----------------|
| A | 非常に優れている | 項目ごとの配点 × 1.00 |
| B | A と C の中間 | 項目ごとの配点 × 0.75 |
| C | 優れている | 項目ごとの配点 × 0.5 |
| D | C と E の中間 | 項目ごとの配点 × 0.25 |
| E | 要求水準を満たす程度 | 項目ごとの配点 × 0.00 |

(ウ) 非価格要素審査点の算出方法

非価格要素審査点は、以下の方法で算出する。

$$\text{非価格要素審査点} = \text{評価項目ごとの評価点の合計点}$$

ウ 価格審査

価格審査について、入札書に記載の金額が予定価格以下である場合、以下の算出式によって価格審査点を算出する。なお、価格審査点は、50点を満点とする。

予定価格以下の金額で入札した場合、予定価格以下の金額の場合は基礎点として15点を付与し、式1より小数点第三位を四捨五入する。

(式1)

$$\text{価格審査点 (X)} = 15\text{点} + \frac{\text{(予定価格 - 入札価格)}}{1\text{億円}}$$

式1により、価格審査点(X)が50点を獲得する応募者がいる場合、式2より小数点第三位を四捨五入する。

(式2)

$$\text{価格審査点} = 50\text{点} \times \frac{\text{(予定価格 - 入札価格)}}{\text{(予定価格 - 最低入札価格)}}$$

※ 最低入札価格：応募者の入札価格のうち最も低い価格

3 総合評価

総合評価は、審議会が非価格要素審査点と価格審査点を合わせて総合得点を算出し、順位をつけて当組合に報告する。

総合評価点の最も高い応募者が複数ある場合、非価格要素審査点に違いがある場合は、非価格要素審査点が高い応募者を落札者に選定するが、非価格要素審査点に違いがない場合は、当該応募者にくじを引かせて選定する。なお、当該応募者が不在の場合は、当該入札事務に関係がない当組合職員がくじを引き、順位を決定する。